



## 老子 (世界の偉人)

6月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2023年6月21日(水)

老子は、紀元前5世紀頃の春秋時代に楚(江南省鹿邑)に生まれる。周の王室の図書役人となった。その当時魯から孔子が訪れて、両者は出会い、孔子は老子を龍に例えて、その人物の大きさを評したという。やがて、周の衰微を見て、隠棲を決意、西方に旅立った。途中、函谷関で関守りの尹喜の請に応じて、上下二編の書(老子道德経)を著して、更に西方に去ったという。

老子二編は、約5千言から成り、「道德経」とも呼ばれる。

道德経は、「易経」と「論語」と共に、古来中国人に深遠な影響を与えた三大思想書である。

上編が37章、「道」の字で始まるので「道経」、下編が44章、「徳」の字で始まるので「徳経」で、それを合わせた名称である。

儒経の「道德」と違って、宇宙人生の根源とその働きを表す言葉である。意表を突く逆説的な言葉にも特色があって、民間に広く伝えられた。

老子の思想の中心は、成功を勝ち取るための「無為」の「徳」を説き、そのための根拠づけとして「道」を説く。

まず、「道」とは、これを視れども見えず、これを聴けども聞こえずとするような感覚を超えたもので、天地万物の存在に先立って自存するものとする。その言葉は、「道可道、非常道。名可名、非常名。無名天地之始」に現わされている。

最高の徳は、徳にこだわらない。だから真の徳となる。低級な徳は徳にこだわる。だから徳そのものまで失ってしまう。その言葉は、「上徳不徳、是以有徳。下徳不失徳、是以無徳。」である。

老子と荘子を合わせて、道家思想を「老荘思想」と呼ぶ。

しかし、老子と荘子の思想は元々類似性はあるながらもはっきりした違いがある。

老子は現実的関心が強く、世俗的な成功主義も視野の中にあるが、荘子は現実に捉われない境地がある。

参考：(日本大百科全書、守屋洋著新釈老子、PHP 研究所、百度)